

本田における斑点米カメムシ類の発生が多くなる恐れがあります！ 水稻の生育に合わせ、適期防除を徹底しましょう！

1 作物名 水稻

2 発生現況

- (1) 7月下旬の巡回調査の結果、本田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率及びすくい取り虫数は平年並であり、水稻の出穂とともに斑点米カメムシ類の本田への侵入が始まっている。
- (2) 7月中旬の巡回調査の結果、イネ科植物が出穂している草地における斑点米カメムシ類の発生が多いため7月24日付けで注意報を発表した。7月下旬の巡回調査においても斑点米カメムシ類の発生は多い状況が続いており、特にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り虫数は過去10か年で最も多かった(図1)。
- (3) 有効積算温度シミュレーション及び定点調査の結果、アカスジカスミカメの第2世代成虫発生盛期は平年(8月第5半旬)より早い8月第2半旬と推測される。

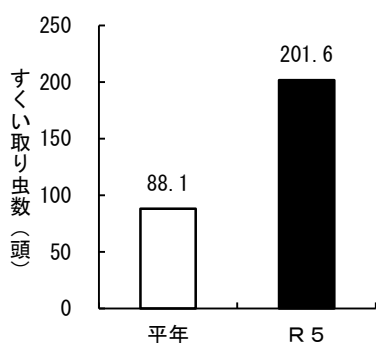


図1 草地におけるカスミカメムシ類幼虫のすくい取り虫数(7月下旬)
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計



写真1 アカスジカスミカメ

3 防除のポイント

- (1) 注意報第1号(7月24日発表)。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05chuiho01.pdf>
- (2) 水田における薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本である。
- (3) 県全体の出穂期は7月30日で平年(8月2日)より3日早かった(みやぎ米推進課発表)。ほ場をよく観察し、適期防除を実施する。特に、出穂が遅れているほ場や晩生品種については、ほ場の出穂状況に注意する。
- (4) ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤10等)とエチプロール水和剤(キラップフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる(主な薬剤は表1を参照)。
※普及に移す技術第93号参考資料「アカスジカスミカメの多発条件下における殺虫剤による茎葉散布処理の効果」https://www.pref.miyagi.jp/documents/8592/685973_2.pdf

(5) クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が侵入し、その後1世代を経過する。クモヘリカメムシの発生地域で「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施する。

※普及に移す技術第92号参考資料「クモヘリカメムシの発生生態」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/621917.pdf>

(6) 水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため、原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施する。

表1 斑点米カメムシ類対象の主な薬剤(『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』より)

IRACコード	薬剤名	無人航空機での登録
1B	スミチオン乳剤	○
	スミチオン粉剤3DL、エルサン乳剤、エルサン粉剤2	
1A/1B	エルサンバッサ粉剤20DL	
2B	キラップフロアブル	○
	キラップ微粒剤F、キラップ粉剤DL	
3A	トレボンEW、トレボン粉剤DL	
4A	スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10、スタークル1キロH粒剤、スタークルメイト1キロH粒剤	○
	スタークル粒剤、スタークル顆粒水溶剤、スタークル粉剤DL、アルバリン粒剤、アルバリン顆粒水溶剤、アルバリン粉剤DL	
4A/UN	オーケストラスタークルエアー	○
3A/4A	スタートレボンW10	○
4C	エクシードフロアブル	○
	エクシード粉剤DL	

※令和5年8月2日現在の登録内容

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム